

まいいぶん 愛知

特集 ～ 弥生ムラ^{やしろむら}の原風景 ～



大型建物と墓地 (99B・Ca区)



ねこじま
猫島遺跡



ムラを囲む環濠 (99E区)

一宮市千秋町に所在する猫島遺跡から、弥生時代中期前葉を中心とするムラ跡が発見された。集落の西側には土壌墓・方形周溝墓群が存在する墓地が形成され、その入り口には大型建物が存在する。また墓地に接した集落内には、ムラの創設者が葬られたと考えられる方形周溝墓が造営されている（[頁に](#) 関連記事）。

県内遺構・遺物集成 No.17

銅鐸に伴う「舌」について

弥生時代を代表する遺物は何といても銅鐸であろう。銅鐸はその形状からみて青銅製のベルであり、カーンという澄み切った金属音を発することによって、共同体としてのムラの構成員たちの心を一つにまとめる役割を果たした。

当然ではあるが、銅鐸は、それ本体のみでは音を発することはできない。銅鐸内面にある突帯に、垂下させた舌（棒）を触れあわせることによってはじめて金属音を発することができるのであり、銅鐸と舌はセット関係にあった。しかし、現在までに、銅鐸本体は全国で500例近くの出土が報告されているのに対し、舌に関しては、極めて出土例が少なく、その実体はほとんど不明であった。今回、一宮市の八王子遺跡と豊田市の川原遺跡から、弥生時代中期の遺構面より、それぞれ1点ではあるが、舌の出土を確認することができたので紹介していきたい。

* * * *

1 八王子遺跡・川原遺跡出土の舌

八王子、川原両遺跡から出土した舌は、いずれも石製品で、形状は両者で若干異なるが、共に銅鐸の使用によって生じた摩耗の痕跡を残している。“謎の遺物”とされる銅鐸の使用状況を推察するうえで良好な資料である。

八王子遺跡から出土した舌は、安山岩製で、長さ6.5cm、幅1.8cm、重さ25.9gの両端を丸く仕上げた棒状の形態を呈する。上端部から1.2cm下に幅0.5cmの溝が帯状にめぐっており、この部分に紐をかけて銅鐸内部に吊したと考えられる。溝の下およそ1.5cmのあたりから約2cmの幅で、銅鐸本体との接触によって生じたとおもわれるごく浅い摩耗痕が認められ、この舌は実際に使用されていたことがわかる。平成8年度に八王子銅鐸が検出された地点に近接する弥生中期(貝田町～高蔵期)の方形周溝墓の周溝内から出土している。

川原遺跡出土の舌は、在地の石材であるホルンフェルスを使用しており、現状は、上端部の一部と下部を欠損しているが、現存長5.5cm(推定復元長6.5cm)、幅1.5cm、重さ11gを測る。全

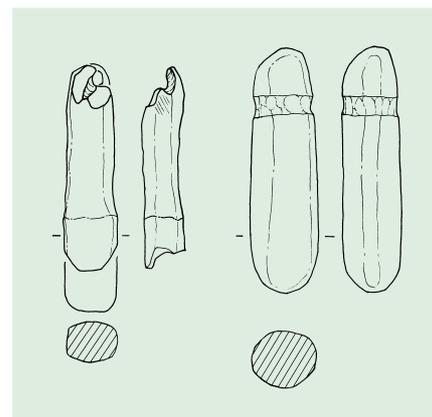
体の形状は、上部先端を丸く仕上げ、下端に向かってわずかなふくらみもちつつ次第に太さを増す円錐状を呈している。上端部には、両側より径4mm程度の穿孔が施され、垂下するための紐を通したと考えられる。注目すべきは、下半部にみられる敲打によると考えられる著しい摩耗痕の存在であり、側縁部分で特に強く、一部表裏面に及んでいる。銅鐸の内面突帯と激しい接触があったことが推測される。弥生中期(瓜郷後半～古井前半期)の墓域から出土した。



左：八王子遺跡出土石製舌
右：川原遺跡出土石製舌



石製舌出土地点(川原遺跡)



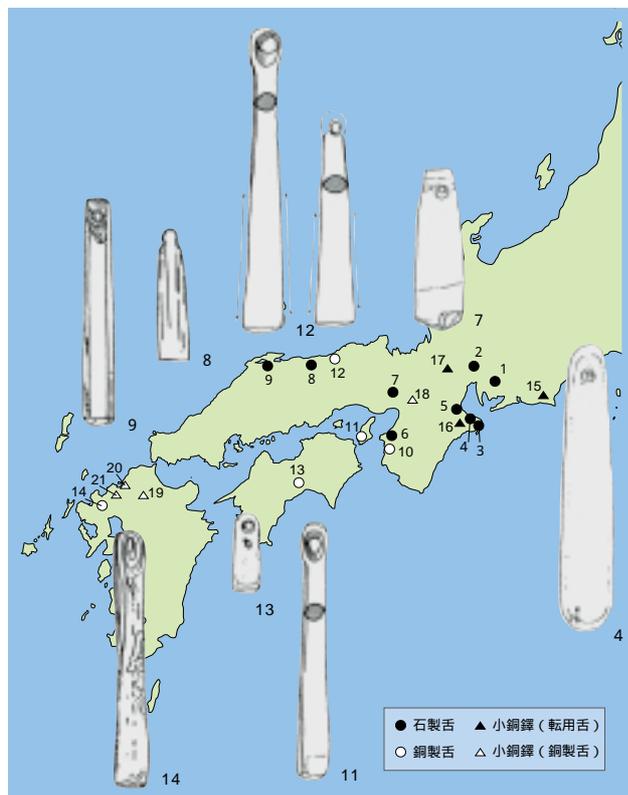
左：舌実測図 1:2 (川原遺跡)
右：舌実測図 1:2 (八王子遺跡)

番号	遺跡名	出土地	銅鐸の形状	舌の材質	舌の長さcm	舌の重量g	備考
1	川原遺跡	愛知	-	石製(砂ノヤマト)	5.5(6.5)	(11.00)	後半～前半
2	八王子遺跡	愛知	外縁付紐	石製(安山岩)	6.5	25.90	- 周溝墓周溝
3	阿津里貝塚	三重	-	石製	-	-	-
4	白浜遺跡	三重	-	石製(珪質泥岩)	11.7	70.00	弥生後期後半の包含層
5	下之庄東方遺跡	三重	-	石製(粘板岩)	9.6	-	弥生後期後半の包含層
6	太田黒田遺跡	和歌山	外縁付紐	石製	11.4	-	外縁付紐 式銅鐸内出土
7	平方遺跡	兵庫	-	石製(片岩)	6.7	-	様式遺物と共伴
8	長瀬高浜遺跡	鳥取	-	石製(碧玉)	5.5	-	弥生前期遺物と共伴
9	タテチョウ遺跡	鳥根	-	石製(硬質頁岩)	9.0	21.16	包含層出土
10	上ノ段遺跡(山地)	和歌山	福田型銅鐸?	銅製	-	-	所在不明
11	慶野中ノ御堂遺跡	兵庫	外縁付紐	銅製	10.7	-	外縁付紐 式銅鐸内出土
12	池ノ谷遺跡(泊)	鳥取	外縁付紐	銅製	12.7	-	外縁付紐 式銅鐸内出土
13	池ノ谷遺跡(泊)	鳥取	外縁付紐	銅製	8.2(9.07)	-	外縁付紐 式銅鐸内出土
14	田村遺跡群	高知	-	銅製	3.4	-	-
15	宇木浜田遺跡	佐賀	-	銅製	10.5	-	期汲田式～期前半
16	愛野山遺跡	静岡	小銅鐸	銅鍍転用	3.5	-	弥生後期後半の木棺墓付近
17	草山遺跡	三重	小銅鐸	銅鍍転用	4.1	-	奈良の溝(弥生後期?)
18	松原内湖遺跡	滋賀	小銅鐸	銅鍍転用	3.5	-	弥生後期の包含層
19	東奈良遺跡	大阪	小銅鐸	銅製	8.3	-	弥生中期後半の溝
20	原田遺跡	福岡	小銅鐸	銅製	3.1(4.3?)	-	弥生中期前半の木棺墓
21	板付遺跡	福岡	小銅鐸	銅製	5.3	-	弥生後期前半の住居内土坑
21	浦志遺跡	佐賀	小銅鐸	銅製	5.4	-	弥生後期後葉の溝

銅鐸舌出土遺跡一覧表

- 4 本浦遺跡群調査委員会「白浜遺跡発掘調査報告」1990
 7 兵庫県教育委員会「北摂ニュータウン内遺跡調査報告書」1993
 8 鳥取県教育財団「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書」1983
 9 鳥根県教育委員会「タテチョウ遺跡発掘調査報告」1979
 11・12・13 春成秀爾「九州の銅鐸」『考古学雑誌』75-2 1989
 14 中島直幸「佐賀県唐津市宇木浜田遺跡出土の銅鐸の「舌」について」『考古学雑誌』70-3 1985
 より図を転載

銅鐸舌出土遺跡位置図



2 各地より出土した舌

現在までに、舌は表・図に示した通り、全国で21遺跡22例(小銅鐸7例を含む)が確認されている。これらから考えられる点を思いつくまま述べてみたい。

銅鐸と舌がセットで確認された例としては、鳥取県泊出土例(銅鐸内面より2本の銅製舌が出土)、兵庫県慶野中ノ御堂出土例(銅製舌)、和歌山県太田黒田遺跡出土例(石製舌)がある(他に和歌山県山地より出土した銅鐸内にも銅製舌があったとされるが、銅鐸本体・舌ともに所在不明となっている)。これらに共通するのはいずれも外縁付紐式段階の銅鐸である点で、いわゆる「聞く銅鐸」を端的に示している。

舌に使用された材質は、現状では青銅製のものと石製のものがみられる。しかし、時期は異なるが愛媛県東宮山古墳出土の馬鐸には有機物(角)が舌として使用されており、他に木製のものもあったとすると、舌の材質には複数のものが使用されていたと考えられる。類例が少ないので判然とはしないが、石製舌の分布は伊勢湾沿岸地域に集中しており、この地域の特色といえるのかもしれない。小銅鐸にみられる銅鍍転用舌も畿内よりも東の地域に分布しており興味深い。

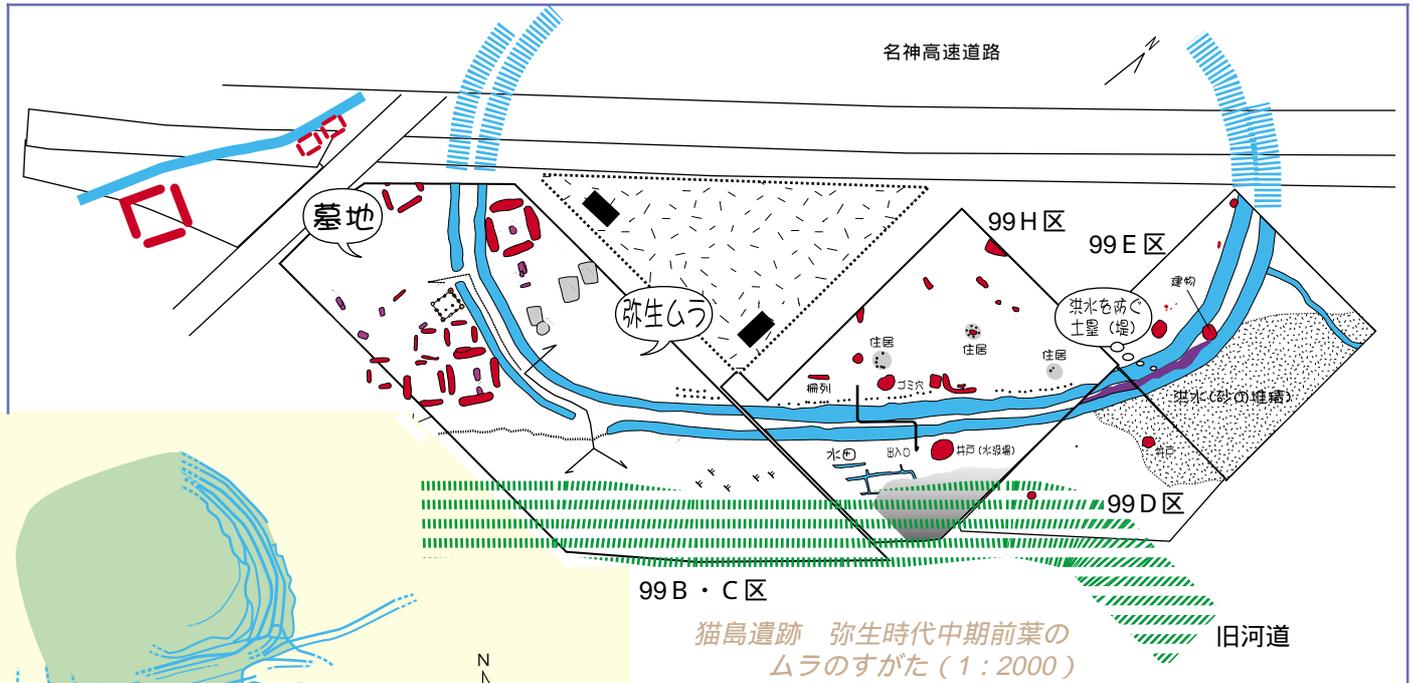
舌の形状は、銅製舌はすべて頭部に紐を通すための円環状の穿孔を持つものであるが、石製舌はバラエティーに富む。大きく二つに分類することができる。一つは川原遺跡例のような頭部に穿孔を持つものであり、もう一つは八王子遺跡例のように紐掛け部分を作り出すものである。兵庫県平方遺跡出土例は、紐掛けのために溝を作り出したのち穿孔を加えており、両者の特徴を組み合わせた形状となっている。

舌の大きさについては、重量が公表されていない資料が多く、長さとの相関関係は不明である。しかし、長さのみに注目すると高知県田村遺跡群出土の銅製舌を除けば、概ね5～7cm程度のグループと10～13cm程度のグループの二つに区分することができる。使用される銅鐸本体の大きさによって舌の長さも規定されていた可能性が考えられよう。

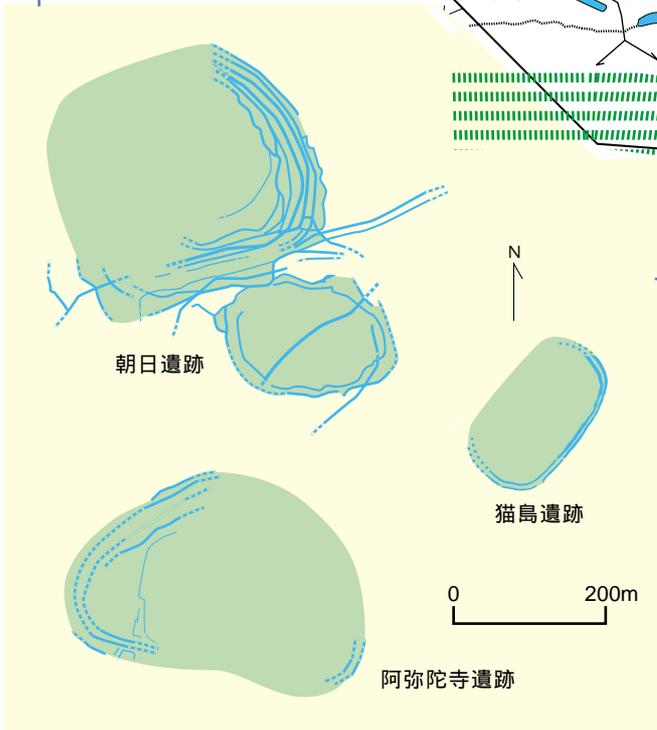
舌の出土状況に関しては、銅鐸本体が特徴的な埋納坑より出土するのに対し、そのほとんどが包含層中からの出土である。(埋文セ 服部信博)

八王子銅鐸と石製舌
(左：八王子遺跡 右：川原遺跡)





猫島遺跡 弥生時代中期前葉の
ムラのすがた (1:2000)



環濠集落の大きさの比較 (1:10,000)

猫島遺跡は東西に長く伸びた自然堤防上に立地し、弥生時代中期初頭に始まり、中期中ごろまで続く集落遺跡であることが発掘調査によって明らかとなった。集落は二重の環濠に囲まれ、南側に水田が、西側に墓域が形成されている。出入り口付近の集落内には、大型方形周溝墓が存在し、特定の人物(ムラの創設者)が埋葬されていた可能性が考えられる。さらに墓域入口には「墓前祭場」としての大型建物も存在する。このように弥生時代の集落景観を



猫島遺跡出土
人面付土器

具体的に知ることができる大変興味深い遺跡である。なお洪水から集落を守った環濠と土塁の痕跡なども発見されている。

編集後記

2月26日(土) 猫島遺跡で現地見学会が催されました。当日は雪が舞う天気でしたが、猫島ムラの環濠は800名もの人びとを呑み込みました。まずは見学に訪れた方々、担当者の方々、ご苦労様でした。さて、猫島ムラ、川原ムラにはどのくらいの人々が日々を過ごしていたので



調査員による説明

しょう。戦乱や自然災害、死への畏怖、はじめて見る技術、ムラどうしのつき合い、これらとどのように向き合っていたのでしょうか。こんな素朴な疑問・感想も、前号で紹介したホームページにお寄せ下さい。弥生ムラの原風景がそこから広がるかもしれません。



現地の見学

まいぶん 愛知 No.60

発行 平成 12年 3月 31日
 編集 (財)愛知県教育サービスセンター
 愛知県埋蔵文化財センター -
 〒498-0017
 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24
 TEL 0567-67-4163 FAX 0567-67-3054
 http://www.maibun.com E-mail: doki@maibun.com
 印刷 クイックス